

◆ 読書感想文・自由図書 ◆

『レッツのふみだい』を読んで

二年 男子

ひょう紙の絵がたのしそうで、おもしろそうだと思ったので読んでみました。

これは、レッツという男の子が、同じものでもふみ台にのったり、おりたりすることで、見え方がちがったり、あることについてまわりの人と自分では気が合わないなとかんじたりすることに気づいたというお話です。

ぼくは、レッツがすごいなと思ったところがあります。それは、ふみ台にのっていないときに見えていたものが、ふみ台にのると見えなくなることに気づいたところです。レッツは、ガスコンロの下に茶色のもやしがかくれているのを見つけたたり、ごはんをたべるテーブルの下にもぐって、三才のときにかいた絵を見つけたりしていました。ぼくがレッツだったら、気づかないようなことに気づいていてすごいと思いました。

ぼくとレッツは、ちがうなと思ったところがあります。それは、ゴキブリのことです。レッツは、ゴキブリがカブ

トムシのメスににているかと思ったり、ゴキブリを手でつかまえようとしたり、ふみ台の名前をゴキブリさんにしたりしています。ぼくはゴキブリがきらいなので、レッツと同じことはできないと思いました。

五才になったレッツは、自分のせがのびたことで、れいぞうこのとびらをあけられるようになったり、エレベーターの十八かいのボタンがおせるようになったりしました。レッツは、これからもどんどん大きくなることで、ふみ台からおりても、見えなくなることがふえていくことに、うれしかどうか考えてしまいます。ぼくは、今までできなかったことができるようになるから、大きくなることのがたのしみです。レッツが考えてしまうのはなんでかなと思いました。

ぼくも、レッツのように、家で手をあらうときやしよつきをあらうときに、ふみ台をつかっています。これからも、ふみ台を大切につかいたいです。

発行所	著者	書名
講談社	作 ひこ・田中 絵 ヨシタケ シンスケ	レッツのふみだい